

デュッセルドルフ大学人文学部文学翻訳科

プログラムの目的と理念

翻訳家養成が一番の目標。更にはドイツ文学のみではなく、外国文学にも精通した出版社原稿審査係、文学評論家、脚本家、脚色家養成を目標にしている。

プログラム設立の歴史と経緯

1988年10月にコースが開設され、今に到る。人文学部に属し、主専攻と2つの副専攻から成る。

プログラム概観

主専攻、副専攻として専攻すべき科目：

英語、フランス語、スペイン語、イタリア語のうち一つを主専攻、一つを副専攻として選択、2番目の副専攻は目標言語（訳文の言語）としてのドイツ語と定められている。更に、英語あるいはフランス語を必ず主専攻か副専攻として選択しなければならない。

卒業までに取得する単位数：

主専攻（52時間）、副専攻（34時間）、目標言語としてのドイツ語（32時間）、翻訳学科共通の科目（4時間）、自由選択科目（14時間）、1週間の実習2回（4時間）

得られる資格：Diplom-Übersetzer/in（翻訳ディプロマ）

資格取得までに要する時間：通常9学期（4年半）

試験：

基礎課程は Diplomvorprüfung をもって修了とし、専門課程は Diplomprüfung（卒業論文、口頭試問、筆記試験）をもって修了とする。

講師陣と開講科目の詳細

講師陣：この学科は独立した学科ではないので（外大における教職課程のようなもの）、それぞれ英語英米文学科、ロマンス語ロマンス文学科、ドイ

ツ語ドイツ文学科で提供されている授業を組み合わせそれぞれ受講するようになっている。

そのため、指導者の資格は翻訳家養成に特別な資格という訳ではなく、それぞれの分野での専門家ということになる。講師のほとんどはドクター以上であるが、Magister の学位のみを持つ講師もいる。

開講科目:選考する言語によって内容は少しずつ違ってくるが以下が卒業までに受講しなければならない科目

(1) 翻訳学科共通の履修科目

ÜB 文学翻訳概論

ÜB 文学翻訳職業紹介/案内

(2) 主専攻:第一外国語

A 言語学

ÜB 概論

PS/HS 辞書学・辞書編集法

PS/HS 意味論

PS/HS 統語論

PS/HS 言語変種

VL 20世紀の言語

B 文芸学

ÜB 概論

PS/HS テキスト分析の基礎

PS/HS ジャンル、メディア別のテーマ/主題

PS/HS 時代別、作家別の文体分析

PS/HS 文学解釈

VL 文学史(19世紀以前の文学)

VL 20世紀の文学史

C 言語学あるいは文芸学

HS 翻訳比較

D 言語演習と翻訳演習

基礎課程

ÜB 対照言語学

ÜB 対照辞書学/辞書編集法

ÜB 文化的コンテキストにおける文学テキスト

ÜB 文学テキスト翻訳（外国語に翻訳）

ÜB 文学テキスト翻訳（ドイツ語に翻訳） 2 コマ

専門課程（文学テキストをドイツ語に翻訳）

ÜB 散文 1

ÜB 散文 2

ÜB 台本/台詞（演劇、朗読、その他）

ÜB 韻文テキスト

ÜB 翻訳家による記述形式テキスト/
対話形式テキストの翻訳例の考察

（3）副専攻：第二外国語

A 言語学

ÜB 概論

PS/HS 辞書学・辞書編集法

PS/HS 意味論

PS/HS 統語論

PS/HS 言語変種

VL 20 世紀の言語 2 コマ

B 文芸学

ÜB 概論

PS/HS テキスト分析の基礎

PS/HS ジャンル、メディア別のテーマ/主題

PS/HS 時代別、作家別の文体分析

PS/HS 文学解釈

VL 文学史（19 世紀以前の文学）

VL 20 世紀の文学史

C 言語演習と翻訳演習

基礎課程

ÜB 対照言語学

ÜB 対照辞書学/対照慣用表現

ÜB 文学テキスト翻訳（ドイツ語に翻訳） 2コマ

専門課程（文学テキストをドイツ語に翻訳）

ÜB 散文1

ÜB 散文2

ÜB 台本/台詞（演劇、朗読、その他）

ÜB 韻文テキスト

ÜB 翻訳家による記述形式テキスト/
対話形式テキストの翻訳例の考察

（4）副専攻：目標言語としてのドイツ語

基礎課程

ÜB 言語学概論あるいは文芸学概論

PS ドイツ語の構造

PS 翻訳理論と翻訳史

ÜB 文学的文体の練習

PS ドイツ語文学の文体分析

VL 文学史

VL 現代文学概観

VL ドイツ語史

PS 文芸学

PS 言語学

専門課程

ÜB 文学的文体の練習

HS 20世紀のドイツ文学

VL ドイツ文学（19/20世紀）

HS 言語学

(5) 実習：基礎課程と専門課程でそれぞれ1週間の実習

入学試験方法（入学資格）

アビトゥア（大学入学資格試験）以外に以下のいずれかの要件を満たす者：

→ギムナジウムの上級課程（11年目から13年目までの期間）で、大学で専攻予定の言語を2年以上受講し、最後3つの期末テストで平均10点以上取得した者

→ギムナジウムの上級課程（11年目から13年目までの期間）で、大学で専攻予定の言語を2年以上受講し、アビトゥアの筆記試験において10点以上取得した者

→ギムナジウムの上級課程（11年目から13年目までの期間）で、大学で専攻予定の言語を2年以上受講し、アビトゥアの口頭試験で10点以上取得した者

上記の条件を満たさない者、あるいは部分的に満たしている者については：

→入学前に適正テスト（主専攻については五時間、副専攻については3時間のテスト）に合格した者

プログラムの特色

特にフランス文学のドイツ語訳に重点が置かれている点が特色と言えば特色。

Stefan-George-Preis という翻訳家の卵におくられる賞が2年ごとに大学で開催されている。その他の特色としては、20世紀の文学に焦点が当てられていることなど。

コンタクトパーソン

Dr. Jürgen Rehbein（入学資格、科の規定担当）

rehbein@phil-fak.uni-duesseldorf.de

Dr. Mona Wodsak（科のコーディネーター、研修や仕事の斡旋、プレス担当） wodsak@phil-fak.uni-duesseldorf.de